

# I-Basho (いばしよ) ラボ

～明日も登校したくなる学校を目指してできること～

子供たちの発達を支える編

宮城県総合教育センター 教育課題研究  
生徒指導研究グループ

# 本研修会の目的

○児童生徒が明日も登校したくなるための手立てを具体化すること。

# 明日も登校したくなる学校の実現に向けて

明日も登校したくなる学校の実現  
学校に登校していない児童生徒の新規発生の抑制



全ての教育活動で **発達支持的生徒指導** 全ての児童生徒に

# 発達支持的生徒指導の実践について

- 児童生徒のよくない行動に目を向けるばかりでなく、よい行動をした時に褒める。その子の良さを認める場面を多く作る。  
(自己存在感の感受)
- 毎朝、グループトークの時間を取り、気軽に話したり、リアクションを取りながら話したりする機会を確保する。  
(共感的な人間関係の育成)
- 授業の中や特別活動の中で自己決定の場を設けている。児童自身のアイデアで係活動を進めさせたり、児童会行事を考えさせたりした。  
(自己決定の場の提供)

# 発達支持的生徒指導の実践について

- 生活や学習の決まりの明確化と可視化。  
(安全・安心な風土の醸成)
- 目指す将来と接続するために必要な職業教育。現在の学習領域とキャリアとの結び付きに対する理解が進むことで行動変容につながる。  
(自己決定の場の提供)

# 個人

「児童生徒が明日も登校したくなるための手立てとは」

個人

○児童生徒が明日も登校したくなるための「発達支持的生徒指導」を具体的に書き出してみましよう。



# グループワーク

「児童生徒が明日も登校したくなるための手立てとは」

## グループ

- ①書き出した付箋を貼り出して、グループ内で共有しましょう。
- ②みんなで取り組む「発達支持的生徒指導」を決め、実践に向けて手立てを具体化しましょう。  
(どの視点で？ どのような働き掛けを？ 等)





## 児童生徒にとって魅力ある・行きたくなる学校づくりの推進

～あらゆる教育活動で「居場所づくり」と「絆づくり」に取り組む。～

- 教職員が安心安全な学校づくりを通して「居場所」をつくる。
- 児童生徒が主体的に取り組む活動を通して自ら「絆」をつくる。

### ●推進地区の指定（塩竈市、石巻市、七ヶ浜町、大崎市を指定）

各教育事務所管内において具体的な実践のモデルとなる市町村を推進地区に指定し、市町村の中学校区内において、その研究手法を普及する。

- ・推進地区の中学校区は、年3回の児童生徒への意識調査を活用したPDCAサイクルに基づく計画的・組織的な取組を実施
  - ・指定期間を2年間とし、2年目は研究手法を域内に普及
  - ・先進地区等から講師を招いての研修会及び先進地区への視察を実施
  - ・指定中学校区に1名の加配教員
- ### ●みやぎ「魅力ある・行きたくなる学校づくり」推進事業連絡会議の開催
- 推進地区における研究推進状況等についての報告及び情報交換を行う。
- ・年3回開催（5月、10月、2月）
  - ・構成員：推進地区拠点校教員、市町村教育委員会担当者、各教育事務所指導主事、義務教育課担当指導主事
- ### ●みやぎ「魅力ある・行きたくなる学校づくり」推進事業研修会の開催
- 本事業の手法を周知するための管理職を対象とした悉皆研修を行なう。

これまでは学校に登校していない児童生徒への支援が中心

登校していない状態にある児童生徒の支援を進める一方、新たに学校に登校しない児童生徒を生まない取組が必要

### ●期待される効果

- ・職員の同僚性が高まる。
- ・授業改善や学校の取組の見直しが進む。
- ・学校に登校していない児童生徒の減少だけでなく、いじめも減少する。
- ・中学校区での取組により、いわゆる「中一ギャップ」の軽減につながる。
- ・市町村教委と学校の連携が深まる。

### ●【参考】国事業「魅力ある学校づくり調査研究事業」

（令和4年度で終期）

- ・年4回の国主催の調査研究委員会に出席し、他都道府県と情報共有。
- ・意識調査をもとに、学校の取組が児童生徒に届いているかを検証し、児童生徒主体の取組を積極的に導入。
- ・協働的な活動等へのICTの活用。

【参考】年間の取組(生徒指導のPDCAサイクル)



- ①意識調査を活用し、実態把握
- ②課題克服のための目標を設定
- ③行動計画を作成
- ④全教職員で取組を実行

- ⑤点検のための調査を実施
- ⑥取組の点検と見直し
- ⑦行動計画の見直し
- ⑧全教職員で実行

- ⑨点検のための調査を実施
- ⑩取組の点検と見直し
- ⑪行動計画の見直し
- ⑫全教職員で実行→⑬調査(次年度の①)



# 全ての教職員による発達支持的生徒指導の充実

## I-Bashoラボ年間計画(例)



### 共通理解・対話

- 「生徒指導の理解を深める編」と「子供たちの発達を支える編」を実施し、児童生徒の実態を踏まえた手立てを考え、共通理解を図る。

### 対話

- 「子供たちの発達を支える編」のみ実施する。調査の結果を踏まえ、手立てを点検・改善する。

### 対話

- 「子供たちの発達を支える編」のみ実施する。調査の結果を踏まえ、手立てを点検・改善する。

### 対話

- 「子供たちの発達を支える編」のみ実施する。調査の結果を踏まえ、1年間の成果や課題を共有し、次年度へ引き継ぐ。

# I-Basho (いばしよ) ラボ

ご覧いただきありがとうございますございました。

